

「数理・データサイエンス教育プログラム」に係る自己点検評価の結果

《点検・評価の方法、概要》

1. 点検・評価の実施

名古屋外国語大学メディア情報・データ科学センター データ科学教育研究部門が主体となり、令和3年度における「数理・データサイエンス教育プログラム」を構成する授業科目について点検・評価をおこなった。

2. 点検・評価の対象

当該プログラムを構成する4科目「AI・データサイエンス入門」、「表計算ソフトウェア演習」、「ICT活用演習」、「プログラミング言語」について、点検・評価をおこなった。

3. 点検・評価の根拠資料

- ・上記科目を対象とする「名古屋外国語大学における授業改善のためのアンケート調査」（2021年度）
（「AI・データサイエンス入門」については担当教員が実施する、理解度に関する毎時のアンケート）
- ・上記科目のシラバス、履修要項
- ・上記科目の履修状況に関するデータ

4. 自己点検・評価の結果の総括

後述の4つの視点から自己点検・評価を実施した。その結果として、履修・修了状況は初年度としては順調であるが、履修者数および履修率のさらなる向上には履修機会を増やす必要がある。アンケート調査から学生の満足度および理解度は高いが、次回アンケートの際には推奨度を直接的に把握し、プログラムの改善に役立てる必要がある。計画は達成されているが、それを維持するためには現状把握と改善が欠かせない。次年度以降はプログラムの修了者の追跡調査等を通じて、産業界のニーズを反映し、プログラムの改善を行うことも求められる。

《点検・評価結果の詳細》

1. 教育プログラムの履修・修了状況・学習成果の把握・改善

「AI・データサイエンス入門」を2021年度からは1期2期ともに開講することにより履修機会が増え、プログラムの履修者数および履修率は高い水準にある。

2. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度・後輩等他の学生への推奨度の把握・改善

「AI・データサイエンス入門」は理解度や講義内容のリクエストなどについて毎時のアンケート調査を実施している。その結果から、7～8割が理解していることがわかる。中間課題の小レポートでは、学生間のバラツキはあるものの、ほとんどの学生が学んだことをさらに掘り下げて調べ、説明することができる。

最終試験についても授業にしっかり出席している学生は、授業目標達成レベルに到達している。

「表計算ソフトウェア演習」、「ICT活用演習」、「プログラミング言語」については、アンケート調査の結果から、右表のとおり学生の授業満足度は高く、また授業内容に強い関心がある。

今回のアンケートでは、推奨度は直接的には把握できないため、アンケートの実施方法を含めて改善し、直接把握できるよう検討する。

アンケート結果の概要	平均値
この授業は、全体として満足であった。	4.30
この授業には、休まず出席していた。	4.57
この授業には、真剣な態度で受講した。	4.38
授業の進み具合は適切であった。	4.13
教員はわかり易く説明していた。	4.22
学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	4.02
授業のレベルは、自分にとって適切であった。	3.98
この授業に大変興味を持てた。	3.94

※アンケート各項目5段階評価（最高点5点、最低点1点）

3. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

2022年度からはプログラムの一部変更して、初年次生を対象とする情報科目である「情報リテラシー」をプログラムの必修科目として含めることにより、多くの履修が見込まれる。

4. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価・産業界からの視点による教育プログラム内容・手法等への意見

就職活動に取り組み始める学生へのアンケートを実施するとともに、「AI・データサイエンス入門」を担当する企業のデータサイエンティストからプログラム全体への意見を聴取し、改善に役立てる。